

1. ミャンマー国／ Myanmar
主要感染症対策プロジェクト（HIV/AIDS 対策）
Major Infectious Diseases Control Project（HIV/AIDS）

Date of Record of Discussion: 19 January 2005
Period of Technical Cooperation: 19 January 2005 ～ 18 January 2010
Project Site: Myanmar
Implementing Agencies: National AIDS Program, National Health Laboratory
and National Blood Center, Department of Health,
Ministry of Health, Myanmar

Project Summary

Myanmar is recognized as the country with second highest HIV prevalence, which is 1.31% among adult, in south-east Asia following Cambodia. About 340,000 people are estimated to be infected as of 2003.

The project covers Tuberculosis, Malaria and HIV. Each component is independently working.

The Project purposes are

- (1) To reduce the risk of HIV transmission due to blood transmission.
- (2) To improve the quality of HIV testing used in blood screening, VCT (Voluntary Counseling & Testing), PMCT (Prevention of Mother to Child Transmission).
- (3) To strengthen the capability of AIDS control team.
- (4) To raise awareness of target population on HIV prevention.

Computer registration system was expanded to Mandalay, Pathein and Myittinar general hospitals. The training was done for the staff of township hospital blood centers in Yangon, Mandalay, Pathein and Kachin State to expand the method to select safer blood donor carefully by questionnaire. Second TV spot was produced to promote blood safety and broadcasted.

The training was conducted to improve the quality assurance of HIV testing for the laboratory technicians from 35 key hospitals. Supervisory visits with NHL staff were carried out and technical guidance were appropriately offered to problematic laboratories.

TOT (Training Of Trainers) on project management and proposal writing was conducted for 12 AIDS team leaders in Thailand. After the training, one small scale project designed by a team leader is under implementation.

ミャンマー国／主要感染症対策プロジェクト（HIV/AIDS 対策）

R/D 署名年月日： 2005（平成 17）年 1 月 19 日
 協力期間： 2005（平成 17）年 1 月 19 日～ 2010（平成 22）年 1 月 18 日
 プロジェクトサイト： ミャンマー
 相手国実施機関： 保健省保健局疾病対策課エイズ対策室（NAP）、保健省保健局
 検査課国立保健検査室（NHL）、保健省保健局病院課国立輸血
 センター（NBC）
 日本側協力機関： 国立国際医療センター

2006 年度派遣実績

派遣形態	出張者名	所 属	出発年月日	帰国年月日	出 張 件 名
長 期	宮本 英樹	協力局	2004/08/19	2007/01/18	エイズ対策・公衆衛生専門家

プロジェクトサマリー

宮本英樹

1. 背景

ミャンマーは東南アジア中、カンボジアについて、HIV 感染率が高く、（成人感染率 1.31%）、2004 年 9 月の時点で約 34 万人の感染者がいると推定されている。

JICA が 2005 年 1 月から開始したこのプロジェクトは、エイズ対策、結核対策、マラリア対策の 3 つのコンポーネントからなり、それぞれ異なる日本側機関によって実施されている。（エイズ：国立国際医療センター、結核：結核研究所、マラリア：HuMA（Humanitarian Medical Assistance））各コンポーネントは実質上独立したプロジェクト形態をとっている。

エイズコンポーネントは、プロジェクト介入対象を全国の基幹病院輸血部および 40 のエイズ対策チームとしており、それらがカバーする患者と地域住民を裨益者とする。

2. プロジェクト目標と活動計画のサマリー

(1) 輸血に伴う HIV 感染のリスクを下げる。

- ・安全な献血者のリクルート、献血者の適切な選択、スクリーニング検査の徹底を通して、病院で行われる輸血時の HIV 感染リスクを下げる。

(2) 血液スクリーニング、VCT（Voluntary Counseling & Testing）、PMCT（Prevention of Mother to Child Transmission）に使われる HIV 検査の質のコントロールを向上する。

- ・病院輸血部で行われる HIV スクリーニング検査や、エイズ・性病クリニックで行われる VCT や PMCT のための HIV 検査の精度管理体制作りを行う。

(3) エイズ対策チームの能力強化を図る。

- ・全国に 40 ある対策チームのリーダーの TOT (Training of Trainers) 研修を JICA タイ HIV/AIDS RCC (Regional Coordination Center) プロジェクトと協力して行う。タイでの研修後、ミャンマー国内研修を当プロジェクトで行う。チームリーダーによる地域プロジェクト計画及びその実施を支援しながら、チームの能力強化を図る。

(4)対象集団の HIV 予防に関する啓発活動を行う。

- ・献血者、若者、学校生徒を対象に、適切なメディアを用いて、予防教育を行う。

3. 平成 18 年度の活動概要

(1)輸血による HIV 感染リスクを下げる安全血液対策

①基幹病院輸血部へのコンピューターによる献血者登録制度の導入

平成 16-17 年度にヤンゴンの国立輸血センターで実施してきたコンピューターによる登録制度を、平成 18 年度は、輸血量が多く、HIV 感染率が高い州・管区の病院輸血部（マンドレー総合病院輸血銀行、パテイン総合病院輸血部およびカチン州のミッティーナー総合病院輸血部）に拡大した。

②問診表を使った献血者選択方法の普及

全国の中から輸血量が多く、HIV 感染率の高い州・管区を選択し、17 年度に行った研修を、下位の病院（タウンシップ病院）に拡大した。具体的には、ヤンゴン管区、エーヤワディー管区のタウンシップ病院の輸血サービスに従事するスタッフを対象にヤンゴンで研修を行った。その後、マンドレー管区、カチン州を対象に、マンドレーで研修を行った。

(2) HIV 検査の精度管理体制の向上

①検査技師への精度管理に関する研修

平成 17 年度に行った HIV 検査精度管理研修を、さらに 35 の病院検査室に対して行った。研修終了後、NHL から配布された 5 つの検体を各自職場で検査してもらい結果を NHL に報告してもらった。それによって結果に問題のあった検査室を同定した。

国立保健検査室は、全国合計約 100 ヶ所の検査室の精度管理を行うようになった。（このうち 2 ヶ所は HIV 検査を行っている NGO である。）

②精度管理上問題のあった地方病院検査室への巡回指導

検査精度に問題のあった検査室を、短期派遣専門家や NHL (National Health Laboratory) スタッフとともに巡回し、問題点や改善点に関し現場で協議・指導した。また、そこから得られた情報を次年度の NHL での研修内容に反映することとした。

18 年度は、タンリン（ヤンゴン管区）、マンドレー（マンドレー管区）、ザガイン（ザガイン管区）、タウンジー（南シャン州）、タチレク（東シャン州）などを訪れた。

(3)エイズ対策チームのプロジェクトマネジメントに関する能力強化

①タイ RCC プロジェクトでの TOT 研修（国外研修）

タイの RCC (HIV Regional Coordination Center) プロジェクトは、周辺国のエイズ対策従事者を対象に研修を行っている。一方、ミャンマーのエイズ対策チームリーダーは従

来性病クリニック付きの医師であり、対策上必要とされる公衆衛生活動の経験に乏しいことが指摘されていた。そこで、プロジェクトはRCCプロジェクトと協力し、ミャンマーのエイズ対策チームリーダーのためのプロジェクトマネジメント研修を企画した。

18年度には、12名のスタッフ（NAP（National AIDS Program）中堅スタッフ）を同様に派遣した。

②小規模プロジェクトの企画、実施、管理を通じてのチームの能力強化

プロジェクトマネジメント研修のなかで、エイズ対策チームリーダーが自分の担当地域の実情にあった小規模プロジェクトを企画することを促進するために、プロポーザルライティングを指導した。自ら小規模プロジェクトを企画し、実施、管理していくことで、彼らのプロジェクトマネジメント能力を強化することを目指している。

その後、提出されたプロポーザルの内容について、チームリーダーと協議を繰り返し、内容の改善を行った。

18年度には、その中のひとつの小規模プロジェクトの実施に関して保健省から許可がえられたので、その実施支援を始めた。

(4)安全血液およびHIV予防に関するIEC

17年度に続き、18年度もNBC（National Blood Center）とCHEB（Central Health Education Bureau）と協力し、テレビコマーシャルを作成し、放映されている。輸血に伴う感染症の危険性や、問診表を使った献血者の選択の必要性を理解してもらえる内容になっている。

4. 平成18年度の成果

コンピューターによる献血者登録制度の導入はマンダレー、パテイン、ミッティーナーの3病院輸血部に行われた。

問診表を使った献血者の選択法の普及は、ヤンゴン管区のタウンシップ病院、パテイン管区のタウンシップ病院、マンダレー管区のタウンシップ病院、カチン州のタウンシップ病院（プータオ病院を除く）に広がった。

HIV検査精度管理体制は、全国約100ヶ所の検査室をカバーした。

NAPスタッフ（主に対策チームリーダー）12名のプロジェクトマネジメント研修をタイRCCプロジェクトと協力し行った。研修をとおして9のプロポーザルが提出され、協議の末、そのうちの1つの小規模プロジェクトの実施が始められた。

安全血液に関する啓発コマーシャルが作成され、放映されている。

5. 今後の展望

(1)輸血によるHIV感染リスクを下げる安全血液対策

コンピューターによる献血者登録制度を、輸血量が多く、HIV感染率の高い州・管区病院輸血部に拡大していく必要がある。2007年度（プロジェクト3年目にあたる）の候

補地としては、モン州、シャン州、マグウェー管区などが挙げられる。

問診表を使った献血者の選択法に関する研修を、輸血量が多く、HIV 感染率の高い州・管区のタウンシップ病院に拡大していく必要がある。2007 年度（プロジェクト 3 年目にあたる）の候補地としては、モン州、シャン州、マグウェー管区などが挙げられる。

プロジェクト 4 年目、5 年目はこれらの地区の活動をモニターすることに活動をシフトしていく。もし余力があれば、さらに問診表の使用に関する研修を他の地域に広げていくこともありうる。

(2) HIV 検査の精度管理体制の構築

精度管理体制に参加する国立病院の検査室の数を増加させていく。将来的にはプライベートセクター（NGO や私立病院検査室）で使用される HIV 検査精度に関しても、対応していくようにする必要がある。

(3) エイズ対策チームのプロジェクトマネジメントに関する能力強化

エイズ対策チームの小規模プロジェクト活動支援を段階的に行っていく、結果をまとめ、そのチームリーダーに国際会議で発表してもらう。さらに、異なる地域、異なるテーマでも小規模プロジェクトの企画・実施の支援を行い、他のチームリーダーがこれらの経験をエイズ対策のモデルとして共有できるような場を設定していく必要がある。



問診票を使った献血者選択に関する研修



HIV 検査の精度向上のための検査室への巡回指導